

令和7年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

学校関係者委員会・第三者委員会

第三者委員 5名
学校関係者委員 6名
事務局（教職員） 5名

本年度 努力目標	1 学習指導においては、基礎・基本の定着を図るとともに、大学入試に対応し得る応用力を育成する。また、生徒が主体的に授業へ取り組むことができる学習環境の整備に努める。
	2 進路指導においては、一人ひとりの進路希望に応じた適切な指導と自己理解を深める支援を行い、主体的な進路実現を図る。
	3 生徒指導においては、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神を育成する。

達成感	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	おおむね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価					年度評価（令和8年3月31日）		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○現状として、学習習慣が定着している生徒とそうでない生徒が同一集団内に混在している。この学力差をいかに縮小していくかが、今後の大きな課題である。	学習指導	○生徒の学力に合わせた教科指導法を工夫し、継続的に研究する。 ○課題や小テストを効果的に取り入れ、学習内容の定着を図る。	○生徒の主体的な授業への参加態度が高まりつつあることがうかがえるか。 ○課題や小テストを通して授業内容を復習し、定期テストに生かすことができたか。	授業に意欲的に取り組む生徒は増加している一方で、主体性に課題のある生徒も見受けられ、一部の教科では、欠点保持者が特定の教科に集中する傾向がみられる。	B	授業に積極的に取り組む生徒が増えていることを踏まえ、今後はグループワークやアクティブラーニングを一層推進し、生徒が主体的に授業へ参加できる学習環境の一層の充実を図っていく。また欠点保有生徒については、補習をさらに充実させるとともに、今後も継続的かつ根気強く指導していく必要がある。
2	○教室環境を整え、協働して学級づくりに参加しようとする生徒が増えている一方で、精神面に不安を抱える生徒も一部に見られる。	学級経営	○教育相談期間を通じて担任が個別面談を行い、生徒一人ひとりの不安を把握するとともに、関係者間で情報を共有し、組織的・継続的な支援につなげる。	○クラスの友人関係は良好かどうか。 ○生徒は自分の役割を責任感をもって果たすことができたかどうか。 ○不安を抱えている生徒がいないかどうか。	各自がクラスや学校行事における自分の役割を理解し、主体的に行動している生徒が多く見られる。また、友人関係もおおむね良好である。	A	二者面談や教育相談週間を通して、担任が生徒一人ひとりの悩みや不安を聞く機会を確保できている。今後とも保護者との連携を図りながら、生徒の様子を継続的に慎重に見守り、適切な指導を行っていく必要がある。
	○現在、ほとんどの生徒は校則を遵守し、規律ある学校生活を送っている。しかし、全体としてはおおむね良好であるものの一部の生徒においては遅刻や服装の乱れなどの校則違反が散見される。	生徒指導	○時間を守る意識を高めるとともに、5分前行動を通して自己管理ができるよう指導する。 ○保護者との連携を図り、協力体制を充実させる。	○遅刻者が減り、5分前行動も徹底されてきたかどうか。 ○保護者および生徒の理解を得た指導がおこなわれたか。	ほとんどの生徒が時間を意識して行動できており、遅刻する生徒が減少している。また、保護者および生徒ともに良好な信頼関係を築きながら指導できている。	A	学校評価アンケートの結果から、生徒指導については、保護者および生徒からおおむねご理解をいただいているものと考えられる。今後もアンケート等を通じて、保護者および生徒の皆様からいただいたご要望を学校運営に生かしていきたい。
4	○進路指導部による年次指導計画のもと、自らの進路希望の実現に向けて、早期から主体的に取り組む生徒が増えている。 ○大学入試では、年内入試による進学者が主流となっている。	進路指導	○進路選択を行うにあたり一人ひとりの適性を見極め、その生徒に合った指導を行う。 ○年内入試のメリットとデメリットを整理して考えさせ、一人ひとりに合った入試方式を選択できるよう指導する。	○生徒一人ひとりが自分の進路について真剣に考えることができたかどうかを重視する。 ○早期決定者が自身の進路選択に納得しているか。	生徒の進路意識は早い段階から高まりを見せており、ここ数年は大学への進学率も着実に上昇している。これまで60%台であった大学進学率が、今年度は初めて70%を超えた。	A	生徒一人ひとりが自己の進路実現に向けてよく努力し、志望する進路目標を達成できた生徒は増加している。次年度に向けては、教科指導力の一層の向上を図るとともに、外部講師との連携を強化し、生徒がより高い進路目標に挑戦し、その実現をめざせるような指導を推進していく。
5	○明るく元気に挨拶ができ、部活動や生徒会活動および学校行事にも積極的に取り組む生徒が多く、日々充実した学校生活を送っている。	学校生活	○すべての生徒が協働して学校行事に参加できるよう、的確に指導する。 ○各部活動が具体的な目標を掲げ、その達成に向けて計画的に指導する。	○すべての生徒が、学校行事や部活動に積極的に参加していたか。 ○部活動において、各部は目標とする成果を十分に上げられたかを検証する。	学校行事において、生徒が自ら進んで参加する姿が多く見られた。また、部活動では全国大会の常連であるダンス部に加え、男子ソフトテニス部、吹奏楽部、生物部なども優秀な成績を収めている。	A	生徒の部活動は年々活発になり、上位の成績を収める部が増えている。一方で、各部が活動するためのグラウンドや体育館などの施設が不足していることがここ数年大きな課題となっている。今後は校内での活動にとどまらず、公共施設の活用や高大連携校の施設借用なども視野に入れ、より良い活動環境を計画的に整備していく必要がある。

第三者・学校関係者評価	
実施日 令和8年2月28日／3月9日	
各委員からの意見・要望等	評価
授業を受ける環境が整っている。今年も昨年と同じ先生の授業を見学したが、その先生は明らかにスキルアップしていた。生徒はタブレットをメモやノートの代わりとして有効活用しており、その結果、あとからきれいな教科書を見ながら復習できるようになっている。	A
教員と保護者とのコミュニケーションが取りやすい。学校評価アンケートの結果からも保護者への連絡や情報提供が適切に行われていることが分かる。また、カウンセリング体制が充実しており、保護者・生徒の双方から非常に高い満足度を得ているようだ。	A
校則など生徒の意見を取り入れながら学校運営がなされているのはとても良いと感じる。近年、不審者情報が増えている中で、防犯カメラを設置されたことは、防犯面での大きな安心材料になる。	A
学校評価アンケートの結果から、進路指導部による進路選択に関する情報提供や進路相談が、生徒の進路決定に有効に機能していることがうかがえる。進路指導に対する満足度は、非常に高い傾向が見られるようだ。	A
自ら進んで挨拶をする生徒が増えている。学力の向上もそうだが、部活動の活躍が凄い。活動場所不足については、高大連携先大学の施設をお借りする形が望ましいのではないかと。衛生面に関わる部分は優先して取り組んで欲しい。	A